[illegible] 七

E 23
48

東京大学総合図書館

ともし乃栞

東京大学総合図書館

東京帝國大學圖書印

東京大学総合図書館

朱雀院乃紅葉ハ三ケ月にとゞめ給ふかうし
乃ほどなりけるよし清様おもちかしくし給ふ御けしき
ハ青海ひ乃舞ハ四乃くして袖こ給ふ事口
おもかげり給ふ色にて見給ふ
時とありておほしけるにや人あまたまくと思へて
せさせ給ふまゝに源氏乃中将せいハいふさま
ひ給ふかたにて小八大けしきのこと中将くさ
ちよふいかさも人をおとしめつとそらおもひていて
官我花かくしての見ん山ふかき入日のかけさ
なくのかゝりがくれ物やなさけのあはれまさる様よ

おほす時まいりのあけ昔にもとてちかよりに見てぬ
さ悔みり点ゝなんし給へつはにちまるやかとけの
御くるまひんか此ゝまちむしときこえておりろく
あつまりにみそし波と此むひ給ふかんさちち
みこさらさ江しけるに給ぬ点ゝたそて神さらなほし
行つろふてま此とりそするかくのあきいくしまよ
中将色あひ給ひし悔さりそ江給ひしりてひろと見
え給ぬ東宮の女御のくにそえ江は津宮てし
たかすおほしくのぬ見まさ此のわかそ給けへ
きくるあかうそゆしと此ぬまたとわつ女房

なかぶらひしと時に名のり悔らつ給いちぎりけるまへの
おもし悔しくのまだ松中ゝ小貞ぬつりかひ壽給ひ給り
ゆきてつ見やゝ申そていと此か千ぬ帝かね末つくい
せいうへもろこしの帝これ給くの見あひ給つときこ
え給へてあいなくいへ帝にてめくてゝことこふ
給りつとつり帝すて給ふきそてそ宮すらむ
ゆすにそみてつましひのさ悔ゆいてひあひし之
此おいとよわろ世ひ在り名伐江ふらゝまのまさ此そ
のこゝろそつけいまいとりこ江れとあて壽さ悔めゝ
そくろせ此もなむし江見んをあふこみ此けうくはて

つま讃岐の院のやすくしつかにましまさて遠流
の後はあそこにて世を恨させ給ひつゝきこしたまふ
中宮の君伊予の守の院へ出させ給ひし時も
やらせ給ふ事も叶はて世をうらみさせ給ひけり
御たゝりとて悪しき事のみ出来て京の御神も
ありし御恨のなくさみかたくやおはしけん
ゆかりの人々をも御見まはせ給ふ事も叶はす
かの人の神と申すもかくれさせ給ふ事ありけり
崇徳院と申す人きこえたる御事を御なけきありけり
我身のはかなき事をおもひしらせ給ひ

今のみかとまておはしまして御弟の院に
御わたりありてつゐに御位をゆつらせ給ふ
されは御兄弟の中とてもかくおはしまさん
はかりなき事ありて院をうらみ申させ給ひて
おほしめしつゝ御心のまゝならぬ世の中を
しろしめさて御身ひとつをうきものにおほしめし
世に出させ給ひしとき源氏の君の
御心をも知らせ給はて御遊ひの時も
まへにさふらひて御物語ありけるとおほせ
まかり出て源氏の女御に仰ありけり

かりとかくこそきこゆれ、さるほどに、此上人
もちけしつゝまいりたるの人々あまたさふらふ
それのきりえゐて宰相中将さふらひけるに[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
山の松風[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

をこしらへんしつ
ふれけれハはかれてハ波をまもりかゝしたる竹をハ義経なる
くけらの
堂の名にまうしてめて秋風吹まひおよひさふらん
はけこうの見ゆるかりなる吉れんかもとしろさけ
かけ
前かけましこと／まかりて心にふすゝ重りてハ
さうけふましめやかりなしそのよ源氏の中将正
三位志むふさうの中将正下のかハ志むんへられハ
あとますてあらたのへ前のありはしなし志むふも
さ
此君ありひつまてとまをつまかふ事かまいハ人のうちな
ゆるしゆひよろ志を空いてひりしいかなる世にゆけ
前人のかなきかけりふ右ハその時まうて寄るまいハ

きうう
将ハのひまりやあのとうろゝしありしと挿こしめてお
おひおよひ伝のまてかふ侍ゝ此わの第のあつ初
とりおそしと二条院よかい人ひ人縦着りと人の前
さてうれさ侍とさはれ前ありと相まほりあかりしく
此けりま旗ハ志りおそとわてかりさん出さつる
まへふうらて々将ハの人此やまうてその縦て
まつてうゆくしうかりて此ゆく伝ゆ前きて縦て
むかゝ此来すまのきうりかハかふ清き帯小将
く
将まあそ伝ての旗の前是伝ひとゝもそな
そうし人の所あり旗此ゆくてまそゆひのあゐ

かうさおりの男の来るを見て人よりさきに見つけて
まかりそめしはあまたのこひ人とも有ける道に
出けるは日をも定めてあまたの我もせねはかへりこそ
ありけれはこのつかひは御はしの中にさらにとはず
奉りけるはしらぬよしをいひまゐらせてかくこそ出て
ありけりたかきれ業平はさはまた人とそおもひて
我身をもなきものにおもひなして心つくしておもひて
きこえて行幸の道にはかなくなりにけりとて
このやうにて世の中にしくれたる人もなかりしかはた
まことにさて思ひしとおほしけるにも心もあらはてつ

ちいさやくいひしてこれはあけくれのれいのいふにおもしろく
時よりかはのうちをもさしおきて物事のありさまを
きゝて御かへしをとりてたゝはかりこともなきを
あはれなる人ときこえてまゐりて御おもしろきを
ちる事はしみとまりしそこにみゆることをきこえて
何事も思ひしれはしはしのほとは心えかたき
ことかりの人はおもひいれたるのこゝろよりも
ちかくてこえたり給いかなる君にあるとてそのこゝろ
て我によりて身のまはりの君といふことをきゝて時はこれ
清和にはおりしそのかはりに君のおほせたまはりいまはの

ちゝ宮は松寺かとよろこひ給ふくいそき給ひけり
給へはかしこには心あはてゝ御まいりを待し
さいきやうしたまふありさまなりけるにとかく過き
て給ひけり二三日の御ゆきをあそはしけるほとにこの
うしろやすき人いみしうおほえけれはきみつやきみを
しはしひめ君をまつ二日ハといかにてやり
くはりきこしめしてかくおほしけれはまいりきみと
きこえ給ひておやしきなとおのつからあへてたにも
中将ものゝ御かたしよりもしたかひふかきにいかにし
むすめのちやうのかみにてあるはまちつけてまつ

三条の宮にいはりさふらひけるをしるしてさいはひぬまかせ
左大中納言の君をたてまつらせ給ふにもとのことにたゝ
あはれなりけるさまやうにおもひてそのみこともみつまゝにてその中
りさまにて過てけるそおほくの御ありさまを
まいりてあまたにはへるに右衛門の宮のいさかひ
されはおほきなる事かくあはれにおはしまさう
給ふの宮にして候ひけるにおほしけるいかなりし御すゝめに
女君そこゝいかにしはしめさせ給ひて
給ひつゝあるらめくやしくつまひとつの人の
にあさましく給ひてきみの宮にこれはいかゝなさせ

の御ありさま[illegible]につけても[illegible]

とけ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まいりけらく人つてにきこえ[illegible]

[illegible]

わりなき[illegible]

[illegible]

[illegible]

さて[illegible]

宮の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

す[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つれ〳〵とむしろうしまゐらせ給へるもまてく〳〵り
まれ給へ院はおほしのほとはいふにたのもしけなり
いみしくうらやましく思ふ三月になりてそのほとに
とりあへぬ心ちしてまつりあまりふと又おほしめしく
て我はそれ給ふ[illegible]まつり給ひて御心まとはし
あてやかにてもてなしたまひてうちとけ給はぬの
御かたに参り給ふにいにしへ君たちの御かたにて
いとおしくいまめかしくおはし給ひて春宮
殊ありまし給ひにたまふてはいそき給はす
御[illegible]給の御[illegible]そ見[illegible]をりの様[illegible]く

ゆりあまくつり出してかうさう給つるいとをかしう
おひさき心にしきは給へりいはんかたなくきよけにおほし
十余人そ居たり給へる三尺の御几帳ひとよろひ
ひま出なく居たるは十五六人さまいさよ給はし
御まへはうへつゐてまいり給つるを前せ
肖まちておそひきおはけにつらやら常にて
いみしさりまさしとみなまいらせ給へりられて
さうらひ給ひていとはしにおはしまいりの身
いと宮の人の心まさに給ひれ給ひけるをせ
御心みな[illegible]つらいかくおはしきたまひてそれいそ

かくて、きつしき所を捨給ひて、いそぎ見られ
まつ里にはひかしき見えて、まつり給
て、ひたすら体の源氏の君を待ちたまひて
侍まつらせ給ひし所をうれしくおほして
とるひさ殿をまへとおほせられけるに、人々いそぎて
御あそひにはつかはされける物語又くはしくこまかに申
けるにまつらせおはしてはありしうちをやかに
ござ見えてもまつらせ給はんとおほし給はんと仰
せにおほくせさせ給ふあとか御たつねこゆ
あそひまのことば人々まへにしてはしと思召て

まつりんしてさふらふのちにはまいらせ給ふこゝろ
うけて　ふかき御こゝろこれへつくのわたくしこそあかしこ
にてこそおほせ給ふ様いかにおほしけるなかに人をと
さうらうなれとかまへておほせありけるにはいそと
いま年のみすさふかきありし御有りかたくおほせあなき
御宗は源氏御うちにまいりてありされはとなりら
のへせつおほしとおほせまいらせられとゆくへ
あはれそひ御しみんといふまゝにはなり給はゝ
とりおほせ給ひて給はりまいのさはりてすまそ
おもしきはいさせてふつくし見ゆるきこえつく

くるしうなれしはいてしとも里に出てもしりされて
あまたゝひまいりてはいかにもてなしけんなと
思ひてたゝおはしまさんにさくらはきなとき給て
しはしものしたまふことはせすたゝおもひさわくこと
かきりなくおほしまとひてつかふまつるへき
御こゝろのいとゝまされてさるへくもあらぬに
おほさるゝに世のそしりもあらむをおそれてなむ
さこそ人のみなうちおほえなくおもひはなれてすゝ
めたまひてさらにまかてたまふおりおりもなくて
こゝろのうちにはよのつねならすおほしまいらせ
たまひてわかきみのおほえもいとゝまさり
ぬるをも御覧しつゝいとゝかきりなくおほしけり

何事かはこれ人のあはれは御身をまふもかうて
おほしかくあはれにはよくくらうみられてまつるそかし
とおほすおほきおとゝの大臣ときこゆる中にもわかれ
ほのかなる御事の姫君ときこえおほせ給ひより
これをうちみてもみなまいらせてはさるへき御ことゝ
かうしをはかはすにを海しと世にきこえてなり
とかうしてたまにはまさりてたとへなしといとなき給ふ
もとより御門の御事にてもなかうとよくもさく
たまたましけるまたの思ひをとほしし思ひさして給
あはれなる事をきこえ給ふとおほせらるゝもいとをしきまて

かしは木のゆゑをきこえて御まへにはをりてそ給はす
さうなきこと
ていひつゝ大将まうてあけさせ給ふ夜
はつかしうてはつかしうてもの給ひてみちかきこゝろ
ひとはつかしうてむかへかへりてきこえまうて
もいまたさたまらぬいまはもの心にまかせ
とおほえたまへれはりあはせてきこえて給へとあれ
あはれなりてむかへきえてさるをもとめられけれ
めさましけれはらうたけにきこえさせ給へと
給ふはかにたゝりぬるにきこえて
まつりたまふにみえおほせたまへて

むかしよりなからんくをもてすへてにな
ほえたまへしとみて御まへさんさ大将
まてはへしあはせはまつりてもたまへり一院たち
たてゐ給つれは三条の宮にそまうて給つるに
又出たまへるはなれたまひ御まへまうて中すに
おほせありまたり給ふにはしりたまへは
をこゝろとこゝろみたちのなまへりぬ
給ふはたまへはるも中将まうりてむ
大将まうしめんとてありて月になり
つゝまれてなからぬ花のけしきやと

さ〳〵て春はしけくとこそいふらしめてたしと
より有かたきつまる所へ出たまへるけしきにゆへ
ちいさく所にまて形見こゝに中将の君ハいとゝ
うれしとおほしておはしまし人々ほいなしと
かくて所くりをかせたまふ世の中のかなしかれ
きかりつけてもかくて心にこもりといふかな
ほつかなきになりて二月十六日にかくれさせ給ひ
しまつにいかにしらかにいみへてよ
かたらひ香のゆか命おもくてとおほしいとう
なれとかれてしるみかけりけりよのたまひて

こゝろしらす見まてなりしかいかにいふかなら
ちきしかなかにもこゝろにおもひしかは
まそなかに色のいかにありと思ひをかけ
かくなくまゝにかりのかの人ことに思ひて
こゝろとにかくて人まにいかりなくてこそ
わかれにたかりきこて給へとかなてまくりて
ものなきことゝ御心ときこってよき人とぞ
まつ雅のことなくて見きゝてまへる花なりこそ
ありかりしかいのこ涌もちなかなれてう
はしかりすゝ猶たに色にいのちをみえてまふ

宮の御方にまいりてかくときこえさせ給へはいとゝ
あやしかりけるほとのことやまことゝ御さたに物おもひ
けるにこのやうなることのみきこしめせはいよいよ
しつ世中はいかなる事のいてくるにかとおほし入給ふに
うとましくおほしつゝ御身のうへもおほしみたれて
命婦のきみたまはりしかはおもひきこえ給ひておはし
しれぬをたのみて御ましますと思ひしものをうき
あまた御よはひのほとすくしてきこえまゐらせ
きこえて後いまさらに思ひまゐらせ給ふ御けしき
はかなく思ひつゝ世をそむきたまはんとおほしめす

みつからは心うくおもひてかくしもそしらはしく
いまはたゝ世をのかれて御こゝろのまゝにおこなひ
さりとてあるへきことならねはいかならん世の人
はてゝ見てきこえさせんとてまたあはれに思ひ
心ある御けしきなり
いまはかりしもなきつらきことにてこのまゝ世
のなかのうきにてそこはかとなくつゝみて
きこゆるに命婦は宮の御心のうちを
と見てまつりけれはたゝうちなけき
見えて

見えてわすらふにたへぬなく〳〵いつかり給ふ事浮に
しやよ此人の御ことふて御てんにまいらせおはしまいてしに
あれ此まいらせしと云たひらへきこえてかゝりかくのこと
いひやりけれはゝてありけるにおはしけれはしり人の御かたに
まつりし奉るをまつりけれ共あらはおはしまいけれ共
命婦をしてありておほしたゝりし給へはしも又わり
けなりける人おやゝ御かたちうつくしかりけるとて
めしたまはりて石川の君とおほせ給はて時めきける人
共はなく思かくれやひとのあはれかめりのはてすく宮月
めでたくまもりゐまいらせおもはしとかはりはおほしめすな

けれはて御文くおほえくりまうしはへりあまた御てきき
ましくいさきよきおほしきはきれはしすよしおね
こゝろしおほえいふもてなしかれとしいふかたひ
あまりつくにそへはとおほしつゝなかめけれとて
侍くまりけりしかは源氏物語のまつりをまいらせ
そりおりしかしこきもしらぬ事よ此人のゆかりにてしきこゆ
御かたしにかくて御ありまにえあらはしてまつ
紫式部ならすおほしをおもむきに思ひふらうめて人
よそてつたなけれ共内はありさまありおにおほへて
ておもはれて後は御かたはらに侍りとて候けり

東京大学総合図書館

おほしけんくらんとかく君達にもおもす
ひとりそのゆいそ給へまいらすすなわち参てまいらせおく
しかしはく侍ふは候けるかはなけてこし中の
えさり此のくまもりの次第おほせはまいら中将の君
出ゑくまてのおもむきを語まて申ければ
まつ世給へく見んつてなかなか参りて給そこ程の
心あり心の物かたりはほとう見へまいらせす
わい四ころの御てにありめんの侍とらくおほしられ
いかさにほとかりくいるこおほさてなかなかんとて
いさきかうへく四月中にて給はりて中将の君

おもそへの色のもとおほつかなくおもえつかうまつる
けるてうまい参てかね参てあらせこそ給て
なりて御ゝくそらは御身をもちりはらくして
さらにさらにまつりへくも給て参てつらくして参りて
御身の御事をもみえんにはまつらへくまつりて
給ほしく給はりまいらせ候あらしや宮にわたりまして
えつまちかりおほせてかならすてそおもしろ
中将の君にはけふのあらそひあまりの御
かまいの御かたにはめわたりてそにも給てしの
御のかくきこえてとてかくおほしめしておもす

はまへ乃せんさいの何となくあはれにわか中まことに
あはれのもとやうりはさいそうしは井せなくて
命やむなしくにくき給ふべき過るべし
とへはしみつゝまことに給はて居けさ
はさんおてにこの気乃まれ本にはゆかんとせびなるまい
けしかし在り候乃なれけとお様を給りあへ
共にさいやかりんと給ん世なそてたらひ
いたもしふとききなとわか宿本せ給へき
ありおはし去るかく程まへ
神めおて虎乃様かりと申すかしけきさ

御道め屋さしておもしことをかり何にそなへりて身
ゆくゆるはるかとりあらわれておまへで
道いのちと道は存しありしかくしかしと会は残く
みえん世の給ふ参ら様かりしはなら給はてしは
一寸法師丈
有くとまかしなゆて爲なこさいせらあはく〳〵とか
あゆれては屋のちくれ共もとらよ道は乃おしく
ゆかぬいゆい給くいま事わかり給ふ存をけすく打
わかるを給つのしんさきおかきみさ道おほせいふう
此共すりめて等なり〳〵なれは出ふへて
ゆそれ給道ては女房にありゆう花れに居まかさ

あかつきしらくも紅梅のにほひの宮にはしくもてまつ
らうそけなかりたはひきゝやうこそはへらぬやうなれ
おほしなからさくらやうなりにほひをかれ給ふうかり
われもまたいつすそ御前にほひの宮にへしたまはれ
まゐらせかくてうちやとのたまへる御てき入
めつらしきをこらえはひかくこそおいくにほひの宮
御こしをはしまへてそはくあるにくきたまひまうち
もゆかりなりなかゆへ人いたくいふまひれ出まてさよ
とて人ゝ見てくいてくるをさせてひかせて
まいり給ひしかなへのい中内せ給はなかりくえそ

下世宮ましくて年てうしに内しくさうしへ方ゝ給ふ
ちきおの世ようりあしらえてはゝやうへ御いえ立
たはそまいとこうらくゝはゝ御見まらうち大はゝ
はらに内のうりて枝が給ゝ持参はあねくてう
はゝしかれならうたしとおはしこへ兵部卿宮はゝ
しはしおとへ宮ゝてゝ御みまふいとゆかてこゝ見てゝ
よりとを見てひとちりにさうしはりかくるさく
らうしくよはしにみつへきとおもひしいちまい
このほとおほさつゝてりと梅柳が若いふくかれと
ちまゝ若君紅梅の花をつゝにしるおほさき

御くわうれいとくらしたりけり上らうあまた
有けるとも申て御心ろりて見ゑさせ給ふよ
しそ給はんしとおもはせ給ひてはゝうき
はしめて御らん有て本をきこゆかにわか君
まいらせ給ひてまいらせ給ひてみへさせ給ふ
まいらせ給ひておはしまい給ふて候へし
かくてそのまゝに御まいりて候はゝこそ
おはしましける御めのとまいりて人々は
御前に給はりてひとへにみなまいりあはせ
いとゝ御かたちよそおひ御様も君はさせ給

御いのちおしくて千代の後はかへすかへすまいらせて
かなしくしくらす御事もすくすく人々にも御よそ
らしく思ひまいらせ給ひてこそまいらせ給ふ
さま給ひてまいらせ給ふ御すかたをみまいらせて
ていかにて更まいて御らん人々にかたりて申
せんかたなくてありて世のあはれにも御かたらんを
とおほしてまいらせ給ふくとうしろやすく候へ
さまさまのあはれにて御ことに人々して給はせ
給ひてひきまいらせて給ひて給はりまいらせて
えんかなしくて見ればそれもかりのよの御給へ

これならそ加海ハとまの出れてよ海ハ絶えけりける
気なちしてもまつり給てそす給ひぬときこえて
さへいふ事侍りて菩薩へりたる友よとのさまに
御かどもかれけよときこえて侍りハ祢給ひ
にあやう事ありお経に御かゝ情をきこえすそへ
いらし君になりにけりて出されてお経かゝ
ゐらうとうてらせ給ふとりくかうしておほくると
なのつとりさて人皆ハ夜有て斎もて名も
斯すんいともほげましきまゐてお侍るハまて
てその人とちきてて待ちやうま常にまいりたまへ

かり奏多連申すかいけそやうふをくれハ人めハ
あしう花もつりあそ見て太郎をも入ゐまハ
をし人と地もしらぬまゝひとく人てやこゝろしも
かくれ給ふありつもかけよハいそぎまきこ一声
もあらてさ梅ふゝゝてしきまてありつらゆて
うるか人ありときこえつらくいそぎをわたら山田
あけさ木のまゝさ御家ありし程とおほえし
かくれさわしとなるしそらも日ゐまさいりうまた
くみ太ゐ天ゐりめハあしりとおとの松さけれくても
とてうれ皆いるゑ申させゐるゐまう寺連とかし一海り

[illegible]
[illegible]
[illegible]
御ことはに又[illegible]もろ人て[illegible]
[illegible]
こうて[illegible]人の[illegible]みちの[illegible]んとおほし[illegible]
御もすみ人を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
よし[illegible]やは人おほし[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

まかせておほくのちりまよふにうけれくおぼして
たゞりなれさ給ひしとおぼしけるこそすゞろなりく
侍なればしをそ袖をさしぬなまいてなれど今宵は
青くんてかき宿りなりしはきたまるかなま青
神無月はつゞれくらて月はつるを兵へまつて
出づれゆり也のいかがりくりしより何ひかりと
もてなし給へる人のなさなきは人々のなさ世給
めの神なり又くて給ひてたれ給ふし法ゝなりて
青なけり御覧しくらしけり何ぞ御あるきさて給
うちくありし御まいづもるやうり扇乃まけしき

さゆうと給ひて御かへりも又心に有りてさ須
物くいふ思ふほんとさすがに物をよるまゝ色
うしくて物とそ申ひ中将よりまし給ひ
ぼりのこえりかと給ひくてこし見
くりとの御かへりさきの見むならぬれとさがいよく
うるとおぼしきそ心にもづまさをふけそなりぬ
なつりいうぬ御事はさ給ひ御ふそ給へる
さてま人のつり給ふの女でし給ひて給ふに何の色ゝ
けふの今日の色なるよ本なる色ゝ也りあ
めり給ひし給ゝりあかくそいふと給ひてかゝるよ

東京大学総合図書館

しおりの決 ことりの巻 草 [illegible]ましいはき 身
をはかのはかはらしく [illegible] 我か
[illegible] [illegible]
[illegible] 夏 [illegible]
[illegible] [illegible]
みけり [illegible] 人 [illegible] [illegible]
[illegible] 決

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ことりの来されまつりしさたによりてあかしたまふ
とひの人々まつかの [illegible] 以後
[illegible] [illegible]
しかり [illegible] いまきまてん [illegible]
[illegible] [illegible]
ことえんまうつみ [illegible] [illegible]
て [illegible] しらりの [illegible] せ [illegible]
[illegible] [illegible]
[illegible] [illegible]
[illegible] [illegible]

東京大学総合図書館

くらゐ人の中へにゐまきれさせしに若殿原
しかるあひたあしかるまいとて侍つらひたりけり
ひ其上てさせるん人ても思ひの外なる事とられて
御ふせんろうを日中ねきて出者てつゝみぬ候
かれへありてあいたもひようにり家なるも
つきせる
心あらみかのことおほしめす人まかりう故よわかく
ひまし其ありつこ君へ人のことにいてたち候を
源氏
かれ清盛の其人の内なるらるにもせんもあり
しかと見んまくほう其いゐ残のまゝ有候とや
うらて乃これ羽根やいて其のまゝい源氏の君に

え其り給ふ所の丹河あきこてていまへつうみき
こゝにとよろこいのむとつとゆりし候れはうたち
といさせとゆみいねとかう所まいとひうち成よ
なるのゝ立して居あり思してきらひれま
りこうんおいてんかきうりとそうすこありき給い
これはうい源氏いと共まいつゝひ其方ありう清
まいらせんなるのそしみせにかくれいみなそひよ御
まこもいちにまいの人あれとをるまいとれ
うらてしたおりにあらたそあのまゝつりき
其のうりはくり給ゝや其前御と許すい侍と

おもしろくこそ見つれとおほきなる愚文
君なりもつともかなしかりしかくてこそやかましかりかり
なしとみえてこころあけるひとなとみやこてんと侍る
世の中思ひそめてをかしきことの心ありけるおほかたのうちつまをと
さるひやうしかうしてたましひなかにたまにおもひに
さりいてきまかせてこころもへすくおもひたまへいりた
ひとつこそすれや
あらぬあるに人見てはかなしわつまあり
うらてたのはかまそてあるかとこころかけてを
まことひとのしもまて申す侍しかれともこそ侍や

ぬかりしもなかくまてとおもひゆ
人はまためあまりつつはかはなれまやの
あまりて見よつと我世なそこらうに見え
ほしかれとあまりつつたかくやと思ひくて
人へ見てこそ見つを中りあからあ見ま
みなさまつこひくして見まつらんつれなきをそ
しかふ昨中あいこの若君つつ侍りてしかはく
してはりのことき姫か様これとはまのてで
うらく日のみ君姫くるはかな侍りかとこそ
見たりつつかくしこそあつまりてはまことみえはけるか

かくいひつゝ袖しほりおしもとめぬるをはおりま
まかりしかはしきなくてにはかにてなり
あまたゝひと思ふくゆゆかなき御風に身ま
かりけり吹くるほとけゆく法ほといつゝ
うちやと御覧身のみな御かほに見え給て
入給へり宮は御いかにもそれにけてにて袖を
まよはし給へるは事きゝつる事てこれ中将の思ひ
わらはをきくすありとりめこなきや
うにてそこおもむきとお御ところ物くしれ
人わらくめけなる事まうひとて見給へ

まうしちゃうにもおもはしけるに物かなしうに
ありしよろつにはすなはちはやかに言はんことを
たうくとくいなうしのなるとて身をいうを
よりて屏風のうちうまの御のもなかにやすむを
袖ひきて几帳をみまへつる屏風のうしろに
よりておはしくとたちよりせめさまで物へてく
まことはすなほゐの御心にのみ過きるほとこそはくらう
はすこ御こ人の給さくら見えぬて
かまこそ物へくありぬたまふを過ていそ
よくあそしはあへ上名はいかに思ひてこそあと

東京大学総合図書館

すゝにかはらしとおもひしかとあかつきくさとひのくら
よしともおもはてねかふまゝにおほせをうけ
おほくすへてふかくそうちすくらゆられてよ
そんうしろて我か身をまつはあやまちいとねんこうの
御しとおほしめしつゝ御中はやまいそのまれ給と申
しきこてしもなとなれいつかさつて候へ
いまつるうしすてつりおもひとしよしのまことに
ねんふつ申すへきかくとしひとつはかねに
法をもよひあみたのみやうかうをやよみてとそ
わしそうもの人はそのちかひ五千七八の

人のうちはしけてかせのふきのまへのおもひそれ
ちぬかはまれわかひとつはあられ御中めてたき御ら
しける、よは清水寺くあへぬさかまりてひ
まうてあはうて寺わかのりの池をみんとて中
くまいりてみつけ給ふまれと申して御ゆかふ
ちかありとおほしめすありぬそれ人めみるりと
見んたまふてりいとまゝりしされいかにゆめあつかひ
かのことくにこそなかれは中ね御はかく何かひかつきえ
よろこひぬ御いのちかへりつゝをよろこひの御
ありくとのめでたしきんとれかまへとなりて

くらき夜りしるしき夜ゆくほ(ん)くさしま
こそとて中ね乃おもひをとはゞくの清めをせ給へ
ねかしとすまふをいそくしこきころふの程まねこ
ろひにほのくしとそすえば中ね
はやし守乃名やとりけん此清乃うかく
ほころふみなの嵐のきはに入りにけりさいうらん
まことは梅清さ
くれ竹の節とまつく夏山のうさ候
よすがのそみわと此ひらうて風を吹き
きとけなれすまふに此清みさねくみなもと給

君いとゞむねしく見ん清けらまめ出て思ふ
給へり御姿ハあさ浦しく知ほしそれハ知らぬ浦
ますゆ清しめ清おもひ中と清く見えて浦川
まつり
うらこそ浦をぞのを入らかなひきて
久りし松之光名をまそ出ておもひりと給り
おもかのさ浦やと見給ふてみく名れとなり
ほしやと思ひしうりし浦まさ子すまふて
河のさ源り色ハ河のよとも色
つらといつらう見ぬとみるもありなおもひ

中将のはゝは我身の上をなけきしと
又ねんしけれは神ほとけのあはれみ給ひ
ひとりやかつら給ひて人に見え給はこ給
しれぬよしなれはいかてかおはしまさん
御中将のこれかれよりきかせ給ひけれ
けるよしてもつきにてをこせしかはいかにし
とて御ゆしものおほえたまはしらすとおほ
ときのみこのよりにて
中納言かやうにあやしうおほしけるの
おもひとはれなるとそこの給ふ

君はかくて月日をへておはしけれはかくて御
あり中ことにこゝろえのませ給ひてとかく日た
けるほとにおひ上り給ひて給へは君の御心
ものかなしく思しておもひけるにおはし君はつれ
しられしおはしやおもひかけくもりしにけり
りあそてうらみて過しきまたなかりけれはかく
ことにはさまさり給ひこまかに物しりて
ねかはくはあはれとそほのかにけるを
いかはり給ひてたゝひとつの君の心のうちを
くるしき人をそいはしられ給ふにいうう

世の中とふしきの世をはなれしとこの山あらとかくかきり
なくて我はかりにてそあはれなるいかてさしはなれて
ゆきわかれこゝろにふしきなるくさふしきなるは
いかにもあれ人のうへとおもひしこゝろ思ひ出よ
なれとをきこえん人まうてかくれとも道
ありあけの中ねかはくはこのよの君ましらに御こて
いとやさしき御こゝろのかたしくさたにきこえしはふ
なれはあるへき事とはけにもおもふはうれしき
思ひやとそはしよはれおはしまして
これを君にもときこえてしまつると山の中

ねかひ入りおはしましてゆきけしきとしとこそ
ふしきにおほしけるを思ひ出てまかりしみなか
わすれかたくおほしめしてあはれとおほす
大将とましこゆる中将とおはしてはかなきことに
又いとくわしれしきよう何ともなかりけれはあはれて
しおほしめさる人しもいかにもかくあはれなり
こゝろのうちにもおほしつゝくそれをみて
とかくおほしめすこの中なれてこそあはれなる
ともまたをもゝはしよきとおもはゆうれしくて
なをそれにつゝむ七月ありそきこえたまふ

さりし源氏乃君隠れて後なりなり給ひ見んとて
なりかはり世給ふへし乃いとけなひちとせをまてせ給ふ
これわか宮と匂ふ宮となりひきさしさせたまひけり
ゆうしめこ君給へる薫大将とて世を心ちまかせた
みな思ひかしそ源氏乃おほえ深けきこと君給ふ
ときわ孫いにて宮となりたまひしか宿世さま
所をとりそまいりしけりとおもひきこゆる
めりたう薫大将てんいまたこの大将ふかくいりか
里内裏と東宮乃御代いとらくなり宮たて
ことひめ君いつくかなり世の中のならよ

とそ君に給ける宮に東宮なれはちかくて世よ
孫んは女の女御とや君とてまつり給へいひき
おほ給ふこれはなとてなりしとおほせの屋さへ
すまゐてきこえてかねて人々なれにせしもの
女房中々内侍所にて給ふなれども
より峯乃巻に給ふまつりぬなるにさたし君
ゆきしき君いにの中ねてきこえ給ふ御子の
おもひわりやうてあひとおりなれは思はしけに給へ
とありぬはなてかにさたちはしめ給ふ君世を
そうまいりてわかれは給ひつつ君からひけり

中〳〵いとおかしかりけりとそ
いひあへりし
川きてをみ二乃宮をいそかし雲井より今を
見侍りしを聞てこれをいまいつれはよの
いとあはれ也ける海のおもにおよはぬ月日に
まてはいとうれしくまつはおもひけるを家
いとあはれとおほえて思ひ出るもかなしけれはかゝり
家なりしはうらみたりしかひなくいかにやすみぬる
此世にはあはれはてぬる月の光をたのみしかな
やうにおもひすてゝおもひしをかはりつる事也

B7874

東京大学総合図書館